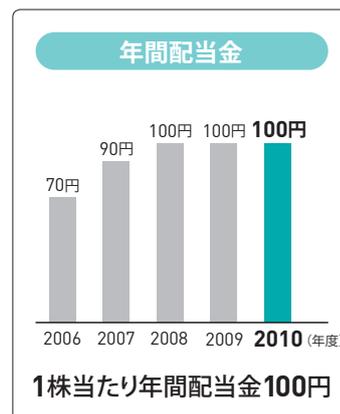
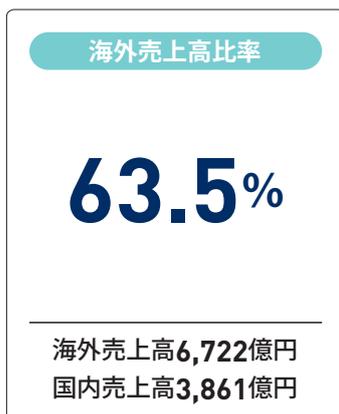
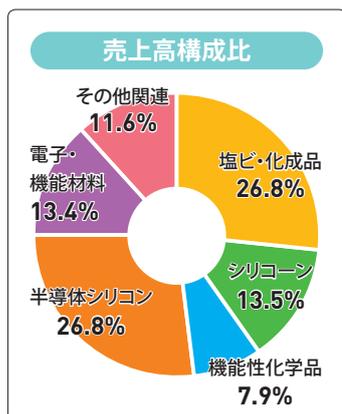
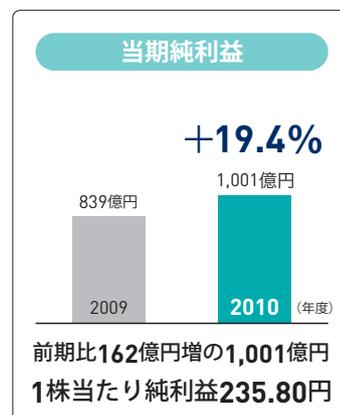
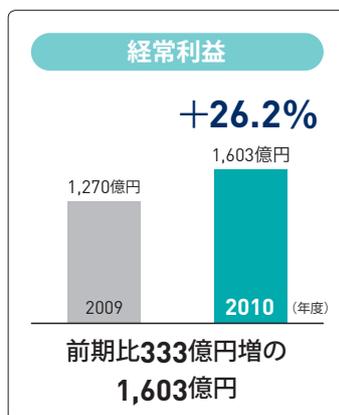
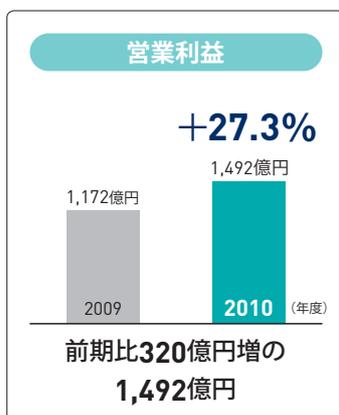
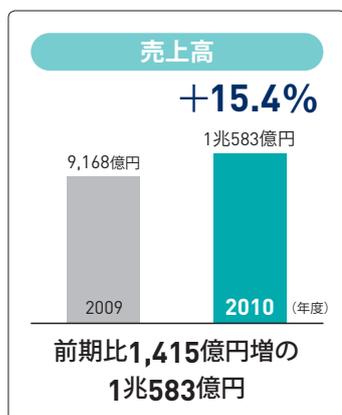


 シンエツの見所



シンエツからのお知らせ

事業セグメントの区分が変更になりました。

当社グループは、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」に従い、当期より事業セグメント区分を変更いたしました。

新セグメント	主要製品・サービス
塩ビ・化成品事業	塩化ビニル樹脂、か性ソーダ、メタノール、クロロメタン
シリコーン事業	シリコーン
機能性化学品事業	セルロース誘導体、金属珪素、ポパール、合成性フェロモン
半導体シリコン事業	半導体シリコン
電子・機能材料事業	希土類磁石（電子産業用・一般用）、半導体用封止材、LED用コート材、フォトレジスト、マスクブランクス、合成石英製品、液状フッ素エラストマー、ペリクル
その他関連事業	樹脂加工製品、技術・プラント輸出、商品の輸出入、エンジニアリング

「強い営業」「強い製造」「強い研究開発」により、
激動する世界情勢と大震災の影響を克服し、
成長を目指します。

このたびの東日本大震災により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域の一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

当期の世界経済は、新興国を中心に景気回復が見られました。一方で、原油価格の高騰やヨーロッパにおける通貨不安など、先行きの不透明感が強まりました。そのような中、本年3月11日に東日本大震災が発生し、日本のみならず世界的にその影響が広がる深刻な事態となりました。

当社グループでは、この大震災により鹿島工場および信越半導体(株)の白河工場が被災し、操業停止を余儀なくされました。皆さまにはご心配いただき、温かなご支援を賜りましたことに感謝し、厚くお礼申し上げます。

これらの二つの工場では、安全を常に最優先として総力を挙げ迅速な復旧に取り組んでまいりました。その結果、震災発生の一ヶ月後の2011年4月に、鹿島工場、白河工場とも一部の操業を再開することができました。その後も復旧作業を急ぎ、震災前の操業に戻すことを目指して全力で取り組んでいます。同時に、震災の影響のなかった国内外の工場で増産を行い、全世界のお客さまへの製品の供給を行っています。一つの工場による集中生産は投資効率が高まる一方で、万一の際に製品供給が行えなくなる危険性も高まります。このため、当社グループでは、かねてより天災などの不測の事態に備え、主要事業の生産拠点の分散化を進めてまいりました。加えて、原料の長期安定的な確保などリスク管理の強化に努めました。今回の大震災ではこれらの取り組みが奏功し、製品供給への影響を最小限にとどめることができました。

今後とも当社グループは、「強い営業」「強い製造」「強い研究開発」をさらに推し進め、激変する経済情勢と未曾有の大震災による困難な局面を乗り越えて、力強い成長を目指してまいります。

第134期の業績と利益還元

当期業績は、連結売上高1兆582億5千7百万円(対前期比15.4%増)、連結経常利益1,603億3千8百万円(同26.2%増)の増収増益を達成することができました。また、連結当期純利益は東日本大震災の被災による特別損失がありましたが、移転価格課税に対する日米相互協議の合意による過年度法人税等の戻り入れもあり、1,001億1千9百万円(同19.4%増)となりました。

当社は長期的な観点に立って、事業収益の拡大と企業体質の強化に注力し、その成果を株主の皆さまに適正に還元することを基本方針としています。これに基づき、当期の年間配当金は前期と同様1株当たり100円とさせていただきます。

主要事業の動向

塩ビ・化成事業では、塩化ビニル樹脂の中核となる米国シンテック社が、世界中の顧客への販売により高水準の出荷を継続し、業績を伸ばさせました。また、同社がルイジアナ州プラクマンで進める電解から塩化ビニル樹脂までを一貫して製造する第1工場の第2期工事が完成し、2010年秋に稼働いたしました。

半導体シリコン事業は、期前半はパソコンや携帯電話用半導体デバイス向け300mmウエハーを中心に堅調に推移しました。期後半は、半導体デバイスの在庫調整や震災による白河工場の操業停止の影響を受けましたが、通期では前期を大きく上回る収益



代表取締役会長



代表取締役社長

金川千尋 森俊三

を上げることができました。

シリコン事業は、国内販売が幅広い分野で好調に推移し、海外でもアジア地域を中心に需要の回復が続き、大きく売上と利益を伸ばすことができました。

機能性化学品事業では、セルロースの国内事業が医薬用製品や自動車関連製品を中心に堅調に推移しました。また、ドイツのSEタイローズ社では建設を進めてきた医薬用製造設備が完成し、二つの拠点での医薬用製品の生産と出荷が可能となりました。

さらに、フォトレジスト製品、希土類磁石、LED用の有機材料などの電子・機能材料事業も収益を伸長させました。

事業基盤のさらなる強化

当社グループはさらなる成長に向けた投資を積極的に進めています。また、当社グループはかねてから世界市場での販売に注力してまいりました。その結果、海外での売上高は全体の売上の三分の二に達しています。今後とも世界中の顧客への販売をさらに進めるとともに、世界最高水準の技術や品質に磨きをかけ、コスト競争力を高めながら積極的に事業を展開してまいります。その一環として、シンテック社ではルイジアナ州プラクマンの塩化ビニル事業をさらに強化するため、原料の塩ビモノマーの生産能力を倍増する工事を2011年度前半の完成に向けて進めております。また半導体シリコン事業では複数の製造拠点を活用し、高品質ウエハーの安定的な供給に努めてまいります。シリコンゴムおよび光ファイバー用プリフォームは、現在、中国江蘇省で建設中の工場を2011年度内の完成を目指し、中国の旺盛な需要を積極的に取り込んでまいります。さらに、オーストラリアのシムコア社では、当社の主要事業である半導体シリコン、シリコン樹脂などの原料となる金属珪素の生産能力を倍増する建設を進めています。その他、省エネルギーに貢献できる新規製品の研究開発、さらにはM&Aなども成長のための選択肢の一つとして、新しい事業の開拓に引き続き注力してまいります。

安全確保の最優先と公正な経営の推進

当社グループは、安全の確保を最優先とし、公正な企業活動を行い、素材と技術を通じて暮らしや産業、社会に貢献することにより企業価値を高め、今後とも経済情勢や市況の変化に的確に対応できる経営に全力を挙げて取り組み、皆さまのご期待にお応えしてまいります。

皆さまにはより一層のご理解とご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

代表取締役会長 金川千尋
代表取締役社長 森俊三

特集：シンエツの国際競争力

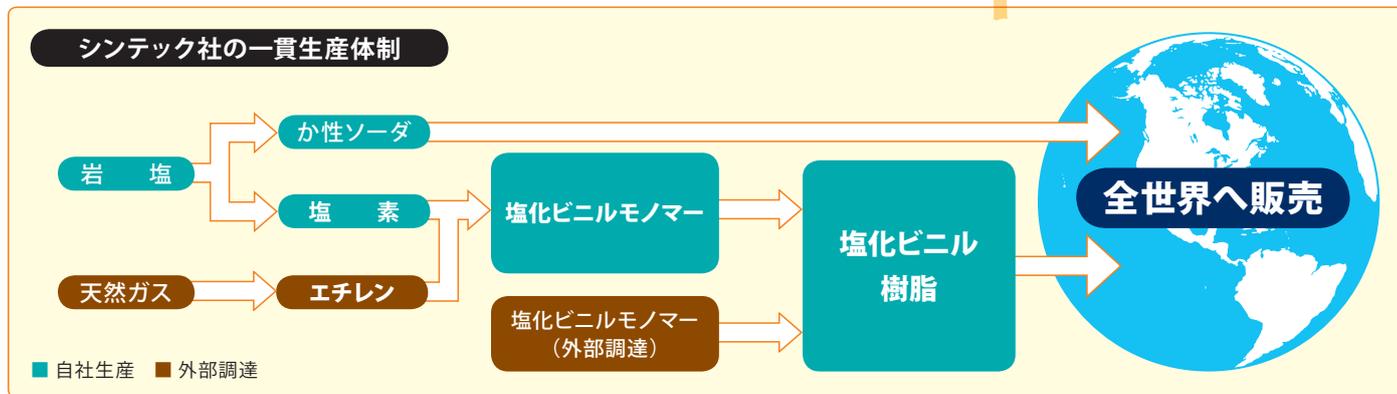
信越グループは、早くから活躍の場を世界に求め、多くの主力製品を海外拠点で生産・販売してきました。世界トップシェア製品を擁し、海外売上高が6割超のグローバル企業として成長しています。

一貫生産体制の強化による安定供給

世界最大の塩化ビニル樹脂（塩ビ）メーカーである米国子会社のシンテック社は、堅調な伸びが見込まれる世界の塩ビの需要に対応するため、塩ビの生産能力の拡大とともに、原料調達の安定化を図っています。

プラクマン工場（米国・ルイジアナ州）では、出発原料である岩塩の掘削から塩の精製、電気分解*、塩化ビニルモノマー（塩ビモノマー）、塩ビ生産までを手がけ、2008年の稼働以来、原料からの一貫生産体制の強化に取り組んでいます。シンテック社はそれまで、原料の塩ビモノマーを外部調達していましたが、自社生産という原料の調達源を広げることで、今後も増大する塩ビの世界需要に応えていきます。

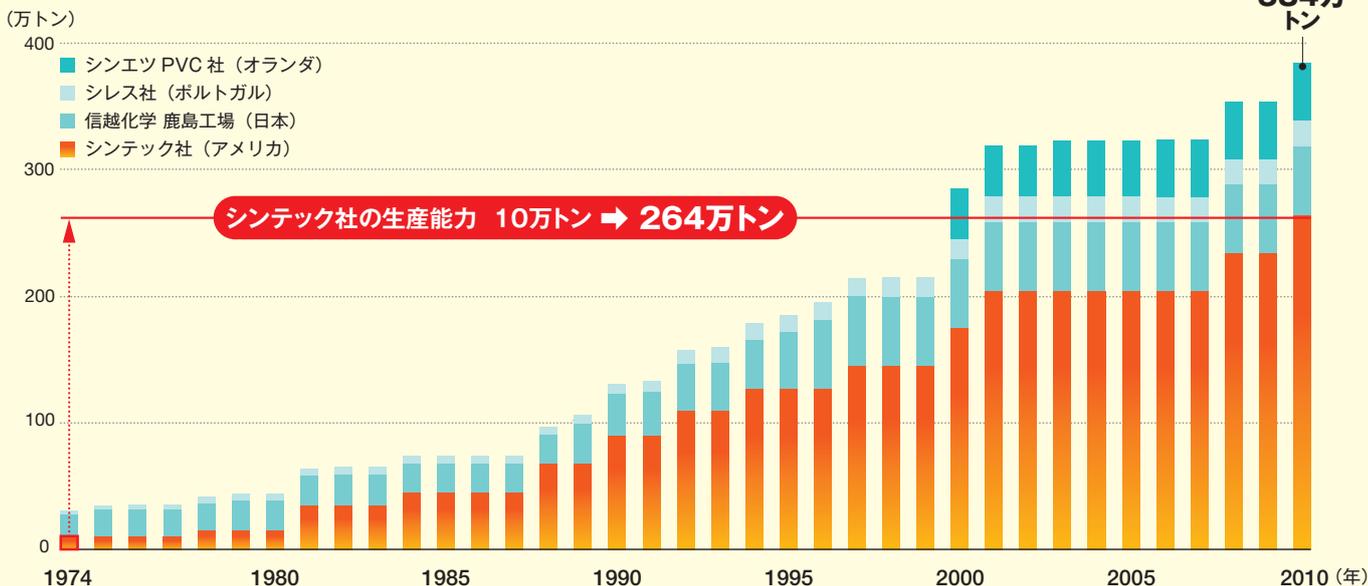
* 塩を電気分解することにより、塩素と、か性ソーダが生産されます。



世界一の塩ビ生産能力

プラクマン第1工場の第2期工事が完成し、塩ビの年間生産能力は30万トン増強されました。需要動向を見極めた設備投資を重ねてきた結果、シンテック社の生産能力は操業当初と比べて**26倍**に拡大しています。シンテック社を中心に、2010年末のグループ全体の年間生産能力は**384万トン**となっています。

信越グループの塩ビ生産能力の推移



シェアNo.1の製品群

信越グループは塩化ビニル樹脂のほか、半導体シリコンウエハー、合成石英、希土類磁石などの世界トップシェア製品を擁しています。高いシェアを確保することにより、市場動向や技術動向など、事業を進める上で非常に重要な情報を迅速に収集することが可能となり、信越グループの強さの源泉となっています。

信越グループの主なトップシェア製品

製品	世界順位
塩化ビニル樹脂	1位
シリコンウエハー	1位
セルロース誘導体	2位 (国内1位)
シリコン	4位 (国内1位)
合成石英 (液晶用フォトマスク基板)	1位
希土類磁石 (ハードディスクドライブ用)	1位

中国市場への展開

信越グループは、需要の伸びが著しい中国市場で、シリコン製品と光ファイバー用プリフォームの現地生産体制を構築します。これまでは主に日本で生産した製品を販売してきましたが、需要地に直結した生産体制の構築により、さらなる販売拡大を目指します。

シリコン製品の新工場は、2011年度の完成を目指し建設を進めています。投資額は約85億円と、信越グループにとって中国における初めての大型投資となります。

光ファイバー用プリフォームは、当社とFasten社（中国）およびTKH社（オランダ）の3社による合弁会社を設立し、光ファイバー換算で年800万kmの生産能力を持つ工場を2011年度中に稼働させる予定です。

- 信越有機硅（南通）有限公司
工場完成時期：2011年度（予定）
成形用シリコンゴム、RTVゴムなどエラストマー製品の製造
- 信越（江蘇）光棒有限公司
工場完成時期：2011年度（予定）
光ファイバー用プリフォームの製造



身近なところで、私たちの暮らしを支えるシンエツ



- 外壁材などの建築材料
- 樹脂窓
- 農業用ビニルハウス
- 水道管



塩化ビニル製品



- ### シリコン製品
- 化粧品、トイレタリー製品
 - LED電球
 - キッチン用品
 - パソコン
 - 携帯電話
 - 自動車



ShinEtsu

セルロース誘導体

- 医薬品
- トイレタリー製品
- コンクリート混和剤



- パソコン
- デジタル家電
- 携帯電話
- 自動車

半導体材料



希土類磁石

- ハイブリッドカー、電気自動車
- 風力発電
- 省エネエアコン
- パソコン
- 工作機械

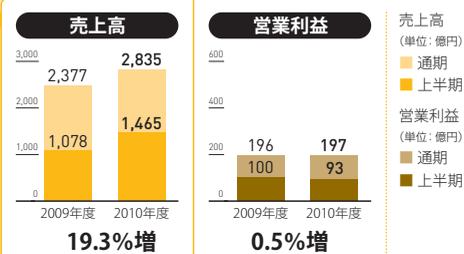


※最終用途の一例です。

事業概況

塩ビ・化成品事業

塩化ビニル樹脂は、米国シンテック社が、米国住宅市場の長期不振による需要低迷が続く中、世界中の顧客への拡販により、高水準の出荷を維持し、業績を伸ばさせました。また、オランダのシイエツPVC社も、出荷が堅調に推移しました。一方、国内事業は、原料価格の上昇や需要の低迷に加え、東日本大震災により鹿島工場の操業が停止した影響もあり、厳しい状況が続きました。



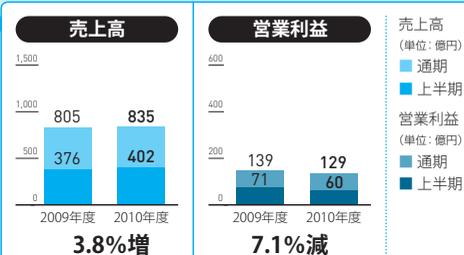
シリコン事業

シリコンは、国内販売が電子機器向けや自動車向けのほか化粧品向けなどの幅広い分野で好調に推移しました。また、海外でもアジア地域を中心に需要の回復が続き、総じて堅調に推移しました。



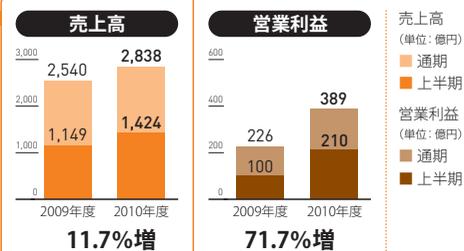
機能性化学品事業

セルロース誘導体は、国内事業において医薬用製品や自動車関連製品が堅調に推移したものの、ドイツのSEタイロース社は、建材向け製品の価格低迷の影響を受け、低調に推移しました。



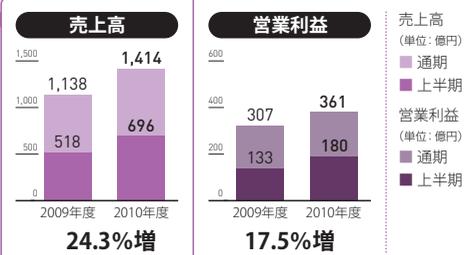
半導体シリコン事業

半導体シリコンは、期前半はパソコンや携帯電話等の幅広い分野で半導体デバイス需要が回復したことから堅調に推移したものの、期後半においては、半導体デバイスの在庫調整や東日本大震災による信越半導体(株)白河工場の操業停止の影響を受けました。



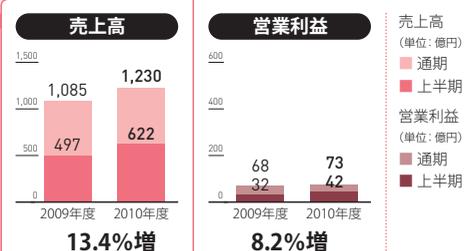
電子・機能材料事業

希土類磁石は、ハイブリッド自動車や省エネルギータイプのエアコン向けに好調に推移しました。またフォトレジスト製品は半導体デバイス微細化の進展もあり、堅調に推移し、LED用コート材も大きく伸ばしました。合成石英製品は、液晶用大型フォトマスク基板や光ファイバー用プリフォームが総じて堅調だった一方、光ファイバー用プリフォームは東日本大震災による鹿島工場の操業停止の影響を受けました。



その他関連事業

信越ポリマー(株)の携帯電話用キーパッドが価格競争等の影響もあり低調に推移しました。一方、半導体ウエハー関連容器は一部で回復基調となりました。エンジニアリング事業は堅調でした。



会社概要 (2011年3月31日現在)

商号：信越化学工業株式会社
 設立：1926年9月16日
 資本金：119,419,688,785円
 本社：〒100-0004
 東京都千代田区大手町
 二丁目6番1号
 電話：03 (3246) 5091
 U R L : <http://www.shinetsu.co.jp/j/>
 従業員数：16,302名 (連結)

役員 (2011年6月29日現在)

代表取締役会長	金川 千尋	取締役	フランク・ピーター・ポポフ*1	常勤監査役	岡田 理
代表取締役社長	森 俊三		金子 昌資*1	監査役	渡瀬 昌彦
代表取締役副社長	秋谷 文男		宮崎 毅*1		福井 琢*2
	斉藤 恭彦		福井 俊彦*1		小坂 義人*2
代表取締役専務	小野 義昭		小宮山 宏*1		永野 紀吉*2
常務取締役	幅田 紀一		宮島 正紀		
	高杉 晃司		荒井 文男		
	石原 俊信		笠原 俊幸		
	轟 正彦		小根澤 英徳		
	秋本 俊哉		中村 健		
			松井 幸博		
			岡本 博明		

*1 社外取締役
*2 社外監査役

株式の状況 (2011年3月31日現在)

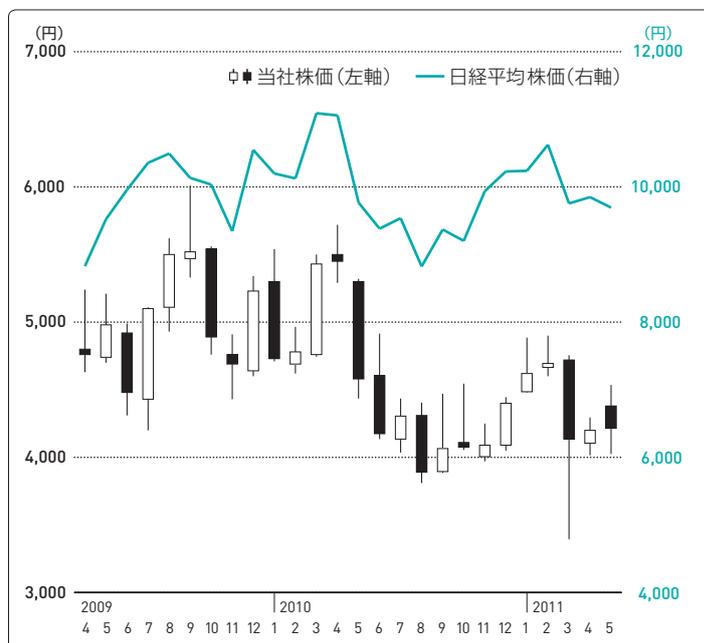
発行する株式の総数：1,720,000,000 株
 発行済株式総数：432,106,693 株
 (注) 自己株式7,510,657株が含まれております。
 株主の総数：74,366 名

大株主 (千株未満は切捨表示)

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	31,279	7.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	29,560	7.0
日本生命保険相互会社	24,370	5.7
株式会社八十二銀行	11,790	2.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4)	11,735	2.8
明治安田生命保険相互会社	10,962	2.6
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	8,105	1.9
日本興亜損害保険株式会社	7,077	1.7
オーエム04エスエスピークライアントオムニバス	6,183	1.5
メロンバンク エヌエーアズ エージェント フォー イッツ クライアント メロンオムニバスユーエスベンション	5,297	1.2

(注) 当社は、自己株式7,510,657株を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。また、出資比率は自己株式を控除して計算しております。

株価の推移



株主メモ

事業年度：4月1日～翌年3月31日
 期末配当受領株主確定日：3月31日
 中間配当受領株主確定日：9月30日
 定時株主総会：毎年6月
 公告掲載方法：電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。
 (<http://www.shinetsu.co.jp/j/index.shtml>)
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
 単元株式数：100株
 上場証券取引所：東京・大阪・名古屋
 株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の管理機関
 同連絡先：〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-232-711 (通話料無料)

株式に関する手続きについて

お手続き、ご照会の内容	お問い合わせ先
証券会社等の口座に記録された株式	
郵送物などの発送と返戻に関するご照会	三菱UFJ信託銀行 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
払渡し期間経過後の配当金に関するご照会	
株式事務に関する一般的なお問い合わせ	
上記以外のお手続き、ご照会など	口座を開設されている証券会社等 にお問い合わせください
特別口座に記録された株式	
特別口座から一般口座への振替請求	三菱UFJ信託銀行 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
単元未満株式の買取・買増請求	
住所、氏名などのご変更	
特別口座の残高照会	
配当金の受領方法の指定	
郵送物などの発送と返戻に関するご照会	
払渡し期間経過後の配当金に関するご照会	
株式事務に関する一般的なお問い合わせ	